

# ワイン育て学ぼ

## 羽曳野の遊休農地活用

ブドウの栽培や収穫を体験してワイン造りを学びませんか。ブドウの産地として知られる羽曳野市の竹内街道沿いの遊休農地を活用し、地元産のワインに親しんでもらおうと、府や羽曳野市内のワイン醸造会社3社などが「竹内街道ワインクラブ」の会員を募集している。

会員になると、3月17日に現地ブドウの苗木の植え付け、6月2日に枝切り、8月下旬に収穫を体験してもらう予定。10～11月には醸造所見学やソムリエらを招いた講習会を開く。ワインクラブの会員は昨年初めて募集し、約180人が参加した。

府南河内農と緑の総合事務所によると、農家の高齢化が進み、府内のブドウ栽培面積は2005年までの15年間で



ブドウの収穫を体験する竹内街道ワインクラブの会員ら。昨年9月、羽曳野市、府南河内農と緑の総合事務所提供

## 苗木植えから収穫体験 会員募る



約3割(220畝)減った。今回、苗木を植える畑も、約10年前から遊休農地になっていた場所を農家から借り受けた。

昨年の会員の中にはボランティアで醸造会社のブドウ栽培などの作業を手伝いに来るようになった人もいた。総合事務所の担当者は「作業体験を通じて地元ワインに興味を持ってもらい、地産地消の拡大や遊休農地の解消につなげていければ」と話している。

定員100人(先着順)。入会金千円と年会費7千円が必要。会員はオリジナルワインがもらえるなどの特典がある。問い合わせは南河内農と緑の総合事務所地域政策室(0721・25・1131)へ。

(玉置太郎)